行田市民大学広報たより

２０１８年
（平成３０年）
１１月１５日
広報部

行田市民大学でパソコン講習会

行田市民大学のホームページの検索・参照・投稿ができるようにすることが目的

行田市民大学広報部によるパソコン講習が８月２５、２６日の２日間開催されました。１日目は初心者向け、２日目は経験者向けを、横山典子ホームページ管理者を講師に迎え実施しました。

一日目は朝９時３０分に広報部の全員が集合し、パソコンのモニター、キーボード、マウス等の掃除、パソコンの正常動作確認をし、準備を整えました。午後１時までに受講予定者全員が集まり、小堤副部長の司会、田口部長、今村理事長の順に挨拶、生徒のパソコンは、すっかり準備された状態で講習開始になりました。横山講師は、初めに生徒のパソコン使用経験の確認後、マウスの使い方、ローマ字での日本語入力、カタカナ入力、濁点、半濁点、促音の小さい「っ」、小さい文字、その他、漢字変換などを説明、生徒はキーボードに向かって一生懸命操作を繰り返し練習しました。１０分間の休憩を挟んで、次はインターネットで行田市民大学ホームページを閲覧、横山講師が先に操作をし、後から同じように生徒が操作、検索サイト、ヤフー、グーグルなど閲覧の方法、その中でグーグルで「行田市民大学」と入力、投稿されている記事の閲覧などを行いました。

２日目の講習会は経験者向けの講習会で、行田市民大学のホームページの投稿方法について学習しました。各自、投稿原稿と写真を持参して実際に行田市民大学のホームページに投稿を行いました。

講習会が終わった後では、行田市民大学の学生が自グループの活動内容をホームページに投稿して行くことになります。

法話と写経体験

９月１３日（木）真言宗豊山派法蔵寺の向井住職による「法話と写経体験」の授業が行われました。最初に阿字観本尊（あじかんほんぞん）についてお話がありました。

阿字観とは、満月の中の梵字「あ」を見つめて観想することで自分の心を凝視し、仏と一体の境地を見出すことで、「あ」は口を開いて最初に出す言葉で「うん」は口を閉じて最後に出す言葉であり、宇宙の始まりと終わりを表す言葉だそうです。

次に般若心経を全員で唱えた後に写経体験を行いました。写経は「字が下手だから」「筆を持つのは苦手だから」などとためらいがちですが、心を込めて丁寧に書写すればいいそうです。（２学年４班　行田市を調べるグループ　宮園哲志）

NPO法人市民大学活動センターの活動

ＮＰＯ法人行田市民大学活動センターより

子ども大学ぎょうだ　北小わくわくクラブ

子ども大学は市内の小学４～６年生を対象に、知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的として、土曜日、日曜日を中心に年間６日間開校しています。子ども大学は、教育委員会の子ども大学事業で「ものつくり大学」「ＮＰＯ法人子育てネット行田」「ＮＰＯ法人行田市民大学活動センター」が連携して実施しているものです。９月２２日に、ＮＰＯ法人行田市民大学活動センターの今村理事長の講義「郷土の自然について　～埼玉にも砂丘があった！～」がありました。

荒川の流れが埼玉県内を右から左へとあばれまわり出来た自然堤防の軽い砂が、季節風で河畔砂丘（かはんさきゅう）として、加須市の郊外に集まり砂丘ができました。現在の「むさしの村」は砂丘の上にあるということでした。子どもたちは、「むさしの村」の下が砂丘だということにびっくりしていました。

最後に、加須の神社の境内から採取して来たという砂丘の砂を見せていただきました。砂の色は茶色がかり、非常に細かいものでした。風に吹かれて集まったもので、細かな粒子になっているということです。

北小学校わくわくクラブは、行田市教育委員会の放課後こども教室を支援する事業としてＮＰＯ法人行田市民大学活動センターが実行しているものです。

北小学校わくわくクラブは、小学校１～３年生を対象に放課後、登録されている生徒に対して実施しています。月に２回（ＡまたはＢグループ対象）の実施ですが、テーマは毎回、新しいものに変わります。今回（９月１１日火）のテーマはシャボン玉です。

最初に今日の課題について説明を受けてから準備作業をします。作業が終わったら外に出てシャボン玉を飛ばしました。最後にどんなときに最も大きなシャボン玉ができたか確認しました。

編集後記

今年は７月から熱い日が続き、台風１２号が関東南方でＵターンして西日本に戻り瀬戸内海を西進する異常がありました。この夏の高温は台風の進路以外に、私たちの体にも大きな影響を与えました。

編集委員　田口　修　茂木幸蔵　小堤敏正　内田　進　水出みよ子